一般演題１

普及と実装研究とは何か？

島津　太一1、実装 太郎2

1 国立がん研究センター がん対策研究所 行動科学研究部

2 〇〇大学 〇〇学部

【背景】1990年代にエビデンスに基づく医療（evidence-based medicine、EBM）の概念が導入され、エビデンスに基づく介入（evidence based intervention、EBI）が、診療ガイドラインなどで示されるようになった。しかしながら、ガイドライン作成などの受動的なアプローチ（拡散diffusion）だけでは、EBIが日常の診療やケア、公衆衛生活動に取り入れられにくく、取り入れられたとしても時間がかかることが示されている。EBIの普及と実装には、より積極的なアプローチが求められている。

【方法】普及と実装科学dissemination & implementation（D&I）scienceとは、研究から得られた知見やエビデンスを、保健医療分野における臨床・公衆衛生活動、政策により良く取り込んでもらうための方法を研究する学問領域である。実装科学は、EBIを臨床やコミュニティーの場に組み込む際の過程、阻害要因、促進要因を明らかにし、EBIの実装がなぜうまくいったのか、あるいは、いかなかったのか、研究が行われた場の文脈も含めて理解することを目指す。これらは、介入プログラムの改善や、成功した介入プログラムを広く再現して普及実装活動につなげるのに不可欠である。

【結果】本発表では、実装科学研究の基本要素である研究目的、EBI、理論的モデル、ステークホルダーの関与stakeholder engagement、実装戦略implementation strategy（EBIの実装を促す戦略）、必要な研究チームの専門性、研究デザイン、測定について紹介する。

【実装科学研究における意義】また、近年整理されてきている実装科学研究の報告ガイドラインについても触れる。

連絡先 ([at] を@に変えてください)

tshimazu[at]ncc.go.jp